

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	いきるちから5		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 26日		2026年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18人	(回答者数) 12人
○従業者評価実施期間	2026年 1月 26日		2026年 2月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数) 9人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育が充実している。	療法師による取り組みを数値化して保護者にフィードバックし、パフォーマンス(成長)を見える化している。	今後はペアレントトレーニングも行っていきたい。
2	利用児の年齢層が固まっている。	同年代の児童が多く、それぞれがライバル視しながら切磋琢磨できる環境がある。	年下にお手本を見せたり、指導する環境も作っていきたい。
3	通常の配置要員に、常時2～3名スタッフを多く配置している	送迎時に添乗職員が会話などから語彙力を養うなどの取り組みを行っている。集団活動も小グループに分けてレベルに合わせた取り組みが出来ている。	スタッフそれぞれの特技を前に出したレクリエーションを進めていきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	男性職員がすくない。	力がついてきた児童の対応が女性職員だと難しい。	男性職員の積極的な採用を促す。大きな児童でも信頼関係を堅固なものとし、パワープレイでなく、言葉で理解してもらえるように何度も声掛けをしていく。
2	スタッフの平均年齢が低い。	経験が浅い。	推進力、実行力はあるので、ベテラン職員との討議をすることで、安定した支援が来ている。
3	ブレイルームが狭い	小学生の粗大運動は出来ない。	ただ激しく動くことだけでなく、ヨガなどバランス運動を取り入れたり、静と動の意識を身につける取り組みをしたい。